

ありがとうお母さん

いしだ
石田 陽音

私の家には、五才の妹と七か月の赤ちゃんがいます。お母さんは、赤ちゃんが生まれてから毎日、赤ちゃんのお世話、そうじ、せんたくなど、いつもそがしくしています。

お母さんは、何かあるとすぐに「きねんにーまい。」と言って写真をとりましたがります。私は、最近それがいやです。理由は、あまり写真が好きではないからです。でも、お母さんは「そんな顔もきねんの一つだよ。」と言ってわらいながらカメラのレンズをむけてきます。

お母さんは、赤ちゃんのベビーバスや洋服、だっこひもなど、なにからなにまで「これ、ひなねが使ってたんだよ。」と言って、いろいろ出してきます。私は、赤ちゃんが、おさがりばかりでかわいそうだなと思っていました。

そんな時に、ある本を読みました。表紙はお父さんにだっこされている赤ちゃんの、一まいの写真です。

その本に登場する女の子が、ある日、学校から帰ってくる時、お母さんが、女の子が小さかった時の物を整理していましたが、そこには、赤ちゃんの時に使っていた温度計や、りにゆう食セット、ファーストシューズ、おまるなどがありました。アルバムも出てきました。そこには、赤ちゃんの写真が、たくさんありました。

その時、私も自分の事を思い出しました。今、妹が使っている私のおさがりも、お母さんが大切にとっておいてくれたのかなと思います。

私も、急に小さかった時の写真が見たくなつて、お母さんにアルバムを見せてもらいました。そこには、私が赤ちゃんの時の写真がたくさんありました。今、妹が使っているだっこひもの写真。そこには「初めてだっこひも」とか「初めての○○」とたくさん書いてありました。今、妹が着ている服でとつた写真もありました。

アルバムを見て、私は家族みんなに感しゃしなきやいけな一と思いました。みんなおさがりでかわいそうだと思つたけど、それは、お母さんが大事に大事にしまつておいてくれた物なので、しまつておいてうれしいなあと思いました。

本に出てくる女の子が、「また聞きたいな私の小さかった時のこと。」と言っていました。私もこの女の子と同じ気持ちです。そして、本に書いてあった「毎日がシャッターチャンス。あなたの小さかった時の思い出は、成長とともに、いきいきとよみがえる。」と言う意味がわかりました。お母さんが、私の事も妹と同じようにたくさんのお写真で残してくれた気持ち。私もこれからは、ときどき妹といっしょに写真をとつて妹が大きくなつたら、その時の思い出をいろいろ話してあげたいと思います。

お母さん、今まで私を大切に育ててくれてありがとう。そしてこれからは、少しきねん写真とるよ。私が大きくなつたら、またいっしょにアルバム見ようね。